令 和 ６ 年 度　　学 校 総 合 評 価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題を踏まえ、重点課題の３項目について、課題解決に向けて当該分掌部が中心となり全教職員の共通理解を図りながら、取り組んだ。評価は以下のとおりである。

（１）学校公式ホームページの充実

学校ホームページ掲載までの流れを簡略化し掲載までの時間を短縮したことで、学校行事に関する内容の掲載数を達成目標である年10回以上を大きく上回り、60回以上達成することができた。また、ホームページの閲覧回数は、月平均訪問者数・閲覧数ともに昨年度より確実に増えてきた。しかし、アンケート結果により８月以降閲覧回数が増えた保護者は全体の16％という結果であった。更新回数が増え、内容が充実してきた半面、そのことを周知する必要があった。

（２）地震に対する防災体制の充実

各児童生徒が自主的な避難行動に関する目標を設定し、学級担任がそれぞれの児童生徒に応じた避難行動に関する指導と評価を行った。地震を想定した避難訓練、引き渡し訓練、シェイクアウト訓練から火災を想定した避難訓練と複数回にわたり訓練を実施したことで、ほとんどの児童生徒が目標を達成することができた。また、消防署員のアドバイスを基に「地震における避難マニュアル」の見直しを行い、避難訓練実施前に学習会を全職員対象に行ったことで、これまでより短時間で避難ができた。

（３）学校と地域、学校間の交流活動の活性化

学校間交流では、小学校とオンラインでの交流を重ねたことで相互理解がすすみ、学習のねらいや方法を共有し充実した活動にすることができた。地域交流では、公民館職員や老人クラブの方との交流が恒例行事として定着しており、地域への理解啓発や地域参画の貴重な機会となった。警察学校生との交流では、児童生徒の特性や接し方を理解しようと積極的に関わり、児童生徒は学生とのコミュニケーションや体を使ったふれあいを楽しみながら意欲的に活動することができた。

７　次年度へ向けての課題と方策

（１）ホームページには知的障害に関する理解・啓発を推進する役割もあり、保護者だけでなく、地域等にも少しでも有意義な情報発信ができるよう、ホームページを充実させ、アクセスしやすくする工夫を行っていく。

（２）避難時の報告の時間をもう少し短縮する工夫、教師の災害時における柔軟な対応力の向上、分散避難への対応についても検討していく。今後も児童生徒が主体的に避難行動をとれるように訓練を継続していく。

（３）今年度の交流の成果と課題を次年度に確実に引継ぎ、交流先と良い関係を継続する。また、交流の充実に向け、時期や活動内容など交流方法を工夫していく。将来、地域で暮らすという視点をもちながら、障害の理解啓発に向けた交流方法を検討していく。

（様式５）

８　学校アクションプラン

<table>
<tr><td colspan="4">令和６年度　　富山県立しらとり支援学校アクションプラン　　－１－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">情報発信</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">学校公式ホームページの充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">学校のホームページは、学校からの情報発信や各種様式の提供、児童生徒・保護者とのコミュニケーションツールや災害時の緊急連絡の手段として重要な役割を果たすようになってきている。昨年度県立学校のホームページのデザインがリニューアルされたが、本校では、まだメニューコンテンツの充実度が乏しく、十分に活用されていない。また更新内容についても校内で配布している各種便りが主であり、更新回数もあまり多くないのが現状である。
そこで、他校のホームページを参考にしながら、コンテンツの内容や更新方法を見直し、児童生徒・保護者はもとより、社会に適切に情報を発信し、本校の教育について理解を深めてもらう手段として活用するとともに、地震や洪水等自然災害が発生した場合の保護者や地域への迅速な情報提供の方法としていきたいと考える。また、学校行事に関する情報発信の回数を増やすことで、保護者等に適時適切に学校生活の様子を伝えられるようにしたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">学校行事に関する内容の掲載数</td><td>ホームページの閲覧回数が以前より多くなった保護者の割合</td></tr>
<tr><td colspan="2">年１０回以上</td><td>８０％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・ホームページの内容や更新方法を見直し、情報発信しやすい環境を整える。
・行事終了後できるだけ早く記事を掲載できるように、掲載予定の学校行事や担当者をあらかじめ選定する。
・ホームページに関するアンケートを実施し、閲覧回数や満足度について情報収集を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成度</td><td colspan="2">学校行事に関する内容の掲載数</td><td>ホームページを定期的に閲覧している保護者の割合</td></tr>
<tr><td colspan="2">６０回（R7年1月末現在）</td><td>７６％</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">・校内ニュースのコーナーをできるだけ充実させるため、学校行事については、できるだけ学部や学年の小さな行事についても掲載できるようにあらかじめ担当者に伝えた。
・更新がスムーズにできるように、ワークフロー機能を使った電子申請を利用したり、掲載写真についての基準を明確にしたりした。
・８月にアンケートを実施し、保護者の閲覧状況や要望を参考にして掲載行事を増やしたり、写真の枚数を増やしたりした。
・１２月にホームページの紹介ポスターを作成。保護者に配布し、校内ニュースを多く掲載していることをあらためて伝えた。
・１月に２回目の保護者アンケートを実施し、閲覧の度合いや満足度を調査した。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>B</td><td colspan="2">・ホームページ掲載までの流れが簡略化され、行事終了から掲載までの時間が以前より短縮された。学校行事に関する内容（校内ニュース）の掲載数はＲ６年４月～Ｒ７年１月３１日現在６０回で、達成目標である年１０回以上を大きく上回っている。
・ホームページの閲覧回数は、Ｒ５年度が月平均訪問者数１９９５、閲覧数４５４９だったが、Ｒ６年度は月平均訪問者数２７３３、閲覧数６５３４と、昨年度より確実に増えてきている。しかし、Ｒ７年１月の最終アンケートを実施したところ、「ほとんど閲覧していない」保護者の割合が６６％から２４％に減少した半面、「８月以降閲覧回数が増えた」と回答した保護者は全体の１６％であった。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="3">保護者のホームページ閲覧については必ずしも100％でなくてもよいのではないか。保護者のニーズを踏まえて写真を多く掲載するだけでなく、学校の教育活動や学校としての指針や思いなども情報として発信していくとよい。学校のＨＰに簡単にアクセスできるなどの工夫が必要である。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="3">知的障害の児童生徒を対象とする学校のホームページには、知的障害に関する理解・啓発を推進する役割もあり、保護者だけでなく、地域や知的障害教育に興味・関心のある方々にとって少しでも有意義な情報発信ができるよう、今後もホームページを充実させていく必要があると思われる。また、学校ホームページにアクセスしやすくする工夫を今後行っていく。</td></tr>
</table>

（評価基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和６年度　　富山県立しらとり支援学校アクションプラン　　－２－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学校生活</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">地震に対する防災体制の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">令和６年１月１日に能登半島地震が発生し、その後も全国で地震が多発している。本校は、大きな被害を被っていないが、今後いつ地震が発生しても対応できる体制が求められている。本校では、毎年地震を想定した避難訓練を行っているが、能登半島地震と同程度の地震発生を想定した場合、経路点検や残留者点検の間、児童生徒がじっと待っているというのは現実的でなく迅速に安全な場所に移動するなどの対応が課題として考えられた。消防署からも、できるだけ早く避難することが重要であるとのアドバイスをいただいている。
そこで、より早く避難ができるようマニュアルの見直し及び児童生徒ができるだけ少ない支援で各自が主体的に避難行動をとれるような指導を考えていく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>主体的な避難行動に関する目標を達成する児童生徒の割合</td><td>改正した地震における避難マニュアルの学習会の実施</td></tr>
<tr><td>８０％以上</td><td>３回</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・各児童生徒が避難行動に関して次の４段階のどの段階かを把握した上で、「自分ですぐに机の下にもぐる」「揺れが収まったら自分でヘルメットをかぶる」など児童生徒が一人一人の実態に応じた主体的な避難行動に関する目標を設定し、目標の達成を目指して関連した学習を行う。
Ａ：自分で避難行動がとれる
Ｂ：友達の行動を見て避難行動がとれる
Ｃ：教師の言葉掛けで避難行動がとれる
Ｄ：教師の身体的支援で避難行動がとれる
・地震における避難マニュアルを見直し、見直した内容を全教職員が理解して行動できるよう学習会を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成度</td><td>主体的な避難行動に関する目標を達成する児童生徒の割合</td><td>改正した地震における避難マニュアルの学習会の実施</td></tr>
<tr><td>９５．３％</td><td>３回</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">・４月に各児童生徒が自主的な避難行動に関する目標を設定し、避難訓練の事前指導の時間を中心に学級担任がそれぞれの児童生徒に応じた避難行動に関する指導を行い、12月の避難訓練で設定した目標に対する評価を行った。
・今年度、5月に地震を想定した避難訓練、７月に高等部を対象とした引き渡し訓練、９月にシェイクアウト訓練から火災を想定した避難訓練、１１月に小・中学部を対象とした引き渡し訓練１２月に地震を想定した避難訓練を実施した。
・４月に消防署員のアドバイスを基に「地震における避難マニュアル」を見直した。５月、９月12月の避難訓練が実施される前に、改正した「地震における避難マニュアル」の学習会を全職員を対象として行った。学習会では、実施計画をもとに実際の避難行動を中心に説明した。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>Ａ</td><td>・４月に各児童生徒が設定した目標について、12月の避難訓練の様子から「できた」「ほぼできた」「あまりできなかった」「まったくできなかった」の４段階で評価したところ、「できた」と「ほぼできた」の児童生徒が９５．３％となった。
・改正した地震における避難マニュアルの学習会を３回実施した。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="2">学校としてどのような流れで避難するのか、災害にどのように対応するのか示してもらうと安心につながる。避難の際は、指定された場所１か所に避難する場合だけでなく、分散避難する場合も想定しておく。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="2">今回の取組により、避難する時間が約３割短くなったという成果が見られたが、「報告の時間をもう少し短くできるのではないか」「マニュアルどおりに行動するだけでなく、教師が災害の状況により柔軟な対応ができる力量も必要ではないか」「分散避難への対応を考えておく」という意見もあった。今後それらについても検討していきたい。</td></tr>
</table>

（評価基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

<table>
<tr><td colspan="4">令和６年度　　富山県立しらとり支援学校アクションプラン　　－３－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">学校と地域、学校間の交流活動の活性化</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">コロナ禍の数年間は地域や学校間の交流が制限され、運動会や学習発表会などの学校行事や学校間交流など本校の児童生徒が地域の人と関わり、本校の児童生徒や教育活動を理解してもらう機会を十分にもつことができなかった。
制限がとれてからは、高等部が地域の老人クラブの方と、中学部の一部の学級が自治会の方と、小学部４年生が古里小学校の６年生と、また警察学校の生徒が来校して全校児童生徒と交流及び共同学習を行った。改めて交流活動の意義が見直され、多様な人と関わる経験が増えることで、児童生徒の成長も期待できる。
そこで、現在行っている交流活動を継続しながら、直接触れ合う活動だけでなく、リモートによる交流等の方法を工夫することで、地域の学校や住民と関わる機会の充実を図りたいと考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">地域や小中学校と交流した回数</td><td>交流活動に参加して、満足感や達成感を感じた教員の割合</td></tr>
<tr><td colspan="2">６回以上</td><td>７５％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・各学部の実態に応じて、対面による交流に限らず、年に２回以上の交流活動を計画する。
（例）中学部：中学校との学校紹介や委員会紹介（生徒会の生徒同士、リモート）など
・取組の意義やねらい、内容等を相手方と十分共有したうえで実施する。
・活動において相互理解の観点から内容を工夫し、児童生徒の主体的な活動を促す。
・実践後、振り返りやアンケートを実施し、満足感や達成感について調査する。
・学校だよりやホームページ等を活用して、交流及び共同学習の意義について保護者や地域の方への理解・啓発を図り、継続的な取組につなげる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成度</td><td colspan="2">地域や小中学校と交流した回数</td><td>交流活動に参加して、満足感や達成感を感じた教員の割合</td></tr>
<tr><td colspan="2">１０回</td><td>８３％</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">・小学部４・６年生と古里小学校の６年生は、オンライン交流３回（各４０分程度、自己紹介、ゲーム）、古里小学校での交流１回（６０分、グループ別に自己紹介やゲーム）を実施した。
・中学部は、学習発表会の際、城山中学校と美術作品を交換して展示。鑑賞カードを書いて交換した（１回）。生徒会同士の交流は未実施である。
・高等部１年生は古里公民館でボランティア活動を１回、２年生は老人クラブの方との交流を１回、ＡＬＴとの交流学習を２回を行った（計４回）。
・警察学校生が授業や部活動に参加し、児童生徒と交流（１回）した。
・交流活動後に、振り返りやアンケートを実施し、活動内容について「よかった」という教員の割合と児童生徒や交流相手の反応、成果と課題をまとめた。
・各交流活動について順次ホームページと学校だよりに掲載し、保護者等に取り組みを紹介した。また古里地区だよりに、本校の活動を掲載していただいた。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>Ａ</td><td colspan="2">・小学校との交流では、オンラインによる交流を重ねることで相互理解がすすみ、学習のねらいや方法を共有し充実した活動にすることができた。
・中学部の作品交流は、形骸的になっており、展示前に学校のことを紹介したり、展示や鑑賞方法等を変えたりするなど、相互理解の観点から工夫が足りなかった。生徒同士が対面する機会を作ることが難しかった。
・地域交流は、恒例行事として定着しており、地域に受け入れてもらい、地域に参画できる貴重な機会として、今後も継続することが望まれる。
・警察学校生は、児童生徒の特性や接し方を理解しようと積極的に関わり、児童生徒は学生とのコミュニケーションや体を使ったふれあいを楽しみながら意欲的に活動することができた。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="3">・古里自治振興会では、しらとり支援学校が地域の大切な学校として考えており、地区だよりに活動を掲載し、ＰＲしている。
・将来、地域で暮らす子どもや障害について、地域の方に知ってもらうために、居住地の学校と本校の交流があればよい機会になる。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="3">今年度の交流の成果と課題を次年度に確実に引継ぎ、良い関係を継続することや、将来、地域で暮らすという視点をもちながら、障害の理解啓発に向けた交流方法を検討する。また、中学校との交流の充実に向け、時期や活動内容などの交流方法を工夫し中学校に働きかけていく。</td></tr>
</table>

（評価基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）